

実施要項・寄付口座

〈場所〉全国47都道府県約60コース(一部別日程 雨天決行)

※コースの詳細はホームページをご確認ください。

〈参加費〉一般500円 中高生300円 小学生以下100円

※参加費は運営費として使用させていただきます。当日、直接集合場所にお越しください。

〈寄付口座(郵便払込)〉00170-1-751604 ※裏面に振込用紙があります。

〈名称〉あしながPウォーク10実行委員会

支援方法

ウォーカー参加

〈個人参加〉ご家族、ご友人の皆さんでご参加下さい。お1人様も大歓迎です。

〈チーム参加〉7人以上でご参加おたたくと、チーム参加として次回報告書に掲載します。

〈フランチイズ参加〉全国統一実施日以外でも、職場や学校の方で独自にコースを作成し、実施できます。

寄付スポンサー

当日の受付、もしくは郵便振替にて、ご寄付で応援ください。日本留学支援と現地での寺子屋教室実施を二本柱とする世界の遺児の教育支援活動費、また“あしなが東北レインボーハウス(仮)”建設費としてあしなが育英会に全額寄付いたします。

ご寄付の使用用途について

近年、あしながPウォーク10では、頂戴したご寄付は全額をウガンダでの寺子屋教育と、海外遺児の日本留学費として利用させていただいております。しかしながら、今年は3月11日に東日本大震災・津波が起き、多くの方が亡くなられ、たくさん子どもたちが親や家族を失いました。今年はオール・あしながファミリーでこの未曾有の危機に立ち向かおうと、あしながPウォーク10実行委員会は、秋季全国会議で協議し、今回頂戴したご寄付は震災・津波遺児家庭の心のケアハウス“あしなが東北レインボーハウス(仮)”の建設費用としても半分利用させていただくことになりました。皆さまのあたたかいご理解のほどをよろしくお申し上げます。

インドネシア 津波遺児から

私はインド洋津波で親と兄を亡くしました。被災後、勉強が手に付かず、将来の夢もわかりませんでした。しかし、阪神大震災の遺児たちに出会い、励まされ、日本の大学に留学することができました。そして、3月の東日本大震災・津波後、今度は私が誰かの力になりたいと思うようになりました。世界中の遺児のため、一緒に行動していきましょう。(ラフマツ/早稲田大学3年)

実行委員長あいさつ

今回の東北地方太平洋沖地震で被災された皆様にごよりお見舞い申し上げます。私たちは誰かに貰った優しさや恩を、周りの助けを必要としている人に還元していく、そんな考えが広まっていつか優しさの輪で世界中を満たしたいと考えています。Pウォークを通して皆さんが、支援先のこと、そして優しさ溢れる社会について少しでも考えて頂けたら幸いです。(櫻井陽子/神奈川大学4年)

ウガンダ 日本の皆へメッセージ



僕たちをご支援くださっている日本のみなさんに感謝しています。僕たちを助けてくださり、本当にありがとうございます。東日本大地震・津波で被災された方々に、心からお見舞いを申し上げます。みなさんは一人じゃありません。僕たちはみなさんのことをお祈りしていますので、強く生きてください。みなさんのことが大好きです。Arigato gozaimasu.(チントウ・アビーン 13才)

私たちが教育を受けられるよう応援してください、本当にありがとうございます。3月に日本で起こった大災害で被災された方々に、心からお見舞いを申し上げます。ウガンダで津波のニュースを聞いたとき、日本のみなさんのことがとても心配になりました。私たちはみなさんといつも一緒にいますので、がんばってください。(ナンバラ・ドリーン 10才)

TERAKOYAなう!@あしながウガンダ

ウガンダのTERAKOYA(寺子屋)に通うエイズ遺児の子供たちの「なう(Now)」をリアルタイムで届けます!子供たちはウガンダでどんな生活を送っているのでしょうか?少し、のぞいてみましょう!

2011年8月、第2学期のテラコヤ卒業式を開催。小学校2年生のンタレ・シャリフ君(10歳)が、「がんばったで賞」を受賞。ンタレ君のお母さんは出稼ぎでほとんど家を不在にしているため、ンタレ君は近所の人たちに面倒を見てもらいながら一人で暮らしています。以前は授業態度が悪く、TERAKOYAの先生たちをいつも困らせていましたが、最近はいいが良く、英語も随分と上達しました。ンタレ君、「がんばったで賞」でもらったスクールバッグを手にご満悦。

2011年1月、TERAKOYAの新学期がスタートしました。新たに13人の新入生を迎えて、TERAKOYAの生徒は全員で53人、とても賑やかになりました。TERAKOYAの生徒が勉強している姿

小学校4年生のカソジ・ナッセル君(12歳)は、家の生活が厳しく、TERAKOYAで食べる給食が一日の唯一の食事です。お母さんも定職に就いておらず、子どもたちを育てるのに大変な苦勞をしています。それでも、カソジ君は毎日TERAKOYAで勉強に励んでおり、以前はクラスで最下位の成績でしたが、最近では最上位に入るまで伸びています。

カソジ君、お兄ちゃんの/シール君と一緒に、/シール君もTERAKOYAで勉強していますが、学年は弟のカソジより下です。

FROM UGANDA

ありがとう!

卒業生のうちの3人が一般の小学校に通い始め、新しい制服を着て遊びに来てくれました。

